

# 令和4年度 丹波篠山市立西紀中学校 学校評価

〔教育目標〕 基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って共に自立に向かう生徒の育成～元気な生徒・元気な先生・元気な学校～

〔めざす生徒像〕 主体的な学びと仲間との学び合いをとおして、深く考え実践する生徒

〔めざす学校像〕 安全安心を基盤に、生徒が学びを創造するコミュニティ・スクール

## 次年度改善の柱

- (1) 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善への取り組み  
(学力向上・自己教育力・授業改善・ユニバーサルデザイン・外国籍生徒への指導)
- (2) 実態に応じた特色ある学校経営・学年経営・教育活動の見直し  
(学校行事・学年行事・学年経営・部活動・コミュニティスクール・業務改善)
- (3) 更に充実した生徒指導体制・小中連携への取り組み  
(ヨコ連携の強化・機動力のある組織・不登校対策・情報モラル・小中連携)
- (4) 未来に挑戦し自己実現を目指すキャリア教育への取り組み  
(キャリア教育・進路指導・体験的学習)

A:よく達成出来た B:達成出来た C:やや課題あり D:改善を要する O:成果 ▲:次年度への課題 □:学校関係者評価

重点1 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善		評価
1	新学習システムを活用した少人数指導や補充的な学習、発展的な学習など、個に応じ個が生きる指導内容・方法の授業改善を進める。	A
2	見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返りを通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	B
3	生徒自らが学習を振り返り、その定着を図り新たな課題に挑戦していけるように、基礎基本の定着とその活用を意識した評価、評価言を工夫する。	B
4	知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりする家庭学習や放課後学習の充実を図る。	B
5	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現在の諸課題に対応する資質・能力を教科横断的な視点で育成する。	B
6	読書への興味を深めるとともに、外部人材を活用も含め創意工夫して学力向上の取組を推進する。	B
<input type="radio"/> 少人数クラスの授業では、基礎的な学習から発展的な内容まで、個に応じた指導が行えた。授業では、生徒同士で学習内容に関する意見交換や協議の機会・時間を増やすことができた。生徒たちから主体的に質問や補充学習を求める様子も増えつつあった。		
<input checked="" type="radio"/> 教科横断的な授業に関しては、異教科間だけでなく、同一教科の学年を越えての指導の工夫も検討していく必要がある。読書に関しては、委員会活動や朝読の時間を使っての更なる興味・関心を増やす取り組みを協議していく必要がある。		
<input type="checkbox"/> 昨年度より概ね評価値が高くなっていることはすばらしい。きめ細かな指導をしている成果である。保護者が、家庭学習の取り組みや基礎基本の定着に評価が低いのは課題である。読書活動の充実に向けて、工夫改善できるのではないか。		
重点2 誇りを感じる学校・学級集団・特別活動		評価
1	学校・学級の課題について、話し合い合意形成・協力して改善することを通し、現在及び将来を見据えた課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。	A
2	学級の生活・学習を話し合い、PDCAサイクルで改善する中で、誇りと責任感をもち、よりよい生活や人間関係を築く自主的・実践的な態度を育てる。	B
3	生徒会・教科係が生活・学習の諸課題を解決・改善する活動を通して、協力・協働して諸課題を解決する生活・学習マネジメント能力を育てる。	B
4	学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする自主的・実践的な態度を育てる。	A
5	効率的、効果的に部活動を行い、顧問と協議しながら自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。	A
<input type="radio"/> 各種アンケートからも学校生活や学級に対して肯定的な意見が多かった。行事や生徒会活動の機会を生かして、生徒の成長につなげることができた。生徒会活動や行事などで生徒の意見を取り入れながら、新しい取り組みや校則のルールの変更を行うことができた。		
<input checked="" type="radio"/> 生徒会活動の精選や教科係をどう活用するかなど、十分に検討して、スムーズに新年度を迎えられるように準備しておく。情報機器の取扱いに関するルールの見直しを行う。		
<input type="checkbox"/> 生徒・保護者から、学校生活や行事に対する肯定的な意見が多いことは素晴らしい。より良い集団作りが形成されていると思う。縦割りブロックの導入も効果があり、学年の枠を超えたつながりが深まっている。		

重点3 未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育		評価
1	将来の職業構造の変化や新産業の創出も踏まえつつ、教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを考える中で、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考え、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。	A
2	生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。	B
3	体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲・態度を養う。	A
4	地域人材による学習や地域貢献活動により、ふるさと「西紀」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。	B
○ 1年では職業調べ、2年では高校等への進路選択について学習を深めた。3年生では進路決定に向けて教育相談を個別に複数回積み重ねた。外部講師の講演や西紀の高齢者と方との交流を通して、未来を見据えて地域の人々とどう関わることか考える機会をとした。		
▲ キャリアパスポートの3年間の見通しや年間の取り組みを担当者を中心に計画していく必要がある。また、生徒に意識づけたり、実感させたりする為には、やっていることを具体的な言葉で伝えて、これが「キャリア教育」であることを理解させていくことが必要である。		
□ シトラスリポンの活動や高齢者への手紙などのボランティアができたことは良かった。進路指導や進路に関する情報提供において、保護者の評価がやや低いのは気になる点である。情報発信をしっかりとしていく必要がある。		

重点4 存在感や成就感を大切に生徒指導		評価
1	生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた生徒指導を進める。	A
2	全教職員の共通理解のもと、ガイダンスとカウンセリングの双方から心の居場所づくりに努め、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・対応に努める。	A
3	スクールカウンセラーと連携した教育相談活動を充実するとともに、相談窓口を明確化し、早期発見・早期対応に努める。	A
4	生徒指導方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携し継続したケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。	A
5	法・条例・学校基本方針や生徒会「いじめ0宣言」によりアンケートや教育相談等を通していじめを積極的に認知し、関係機関とも連携し、早期解決を図る。	A
6	情報機器の使用時間や使用目的について、生徒会活動や関係機関との連携によりコミュニケーションや個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させる。	B
○ どの項目も評価が高く、日ごろからきめ細やかな生徒指導を職員全体で取り組んでいる。スクールカウンセラーやSSWとの強い連携は、問題の早期発見・早期対応につながっている。生徒の背景に目を向けながらの生徒指導や支援が定着してきている。		
▲ 生徒たちの置かれた環境の変化に合わせて、情報機器の取扱いのルール(「西紀のネットルール」)の見直しを行う。また、4月に県警サイバーを招いて、講演会を行い、生徒や保護者に啓発をしていく。「制限」から「適切な使用」に指導を変更していく。		
□ 保護者アンケートの結果からも、保護者理解が高く、しっかりと丁寧に取り組まれている。SCとの連携やケース会議等により、早期対応・組織的な指導は継続して取り組んでほしい。大変だと思うが、きめ細かな指導の継続をお願いしたい。		

重点5 豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育		評価
1	特別支援教育を中核に据え、ユニバーサルデザインや教育支援計画における合理的配慮を充実し、豊かな人間関係づくりと、ともに伸びる力を育成する。また、日本語指導を必要とする生徒や不登校生徒についても個別の指導計画に基づき、計画的・組織的に指導を行う。	A
2	他者や自己との対話による道徳の時間を要として体験的・実践的活動をはじめとする学校の教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	A
3	人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。	A
○ 生徒それぞれの実態や課題にあわせて、合理的配慮や支援をおこなうことができた。人権朝会、Hand in Hand、道徳の授業の充実を図り、友だちとのつながり、お互いを思いあえる心や態度を育むことができた。		
▲ 引き続き、各生徒の実態に応じた支援計画や具体的な方法を、学年を中心に学校全体で共有し、支援していく。個別の対応が必要な生徒が更に増える中で、限られた人員でできる支援方法やその変更の検討を都度協議していく。		
□ 道徳・人権・特別支援教育がAランクの評価をされていることは素晴らしい。また、保護者アンケートからも肯定率が高く、よく取り組まれていることがうかがえる。引き続き、個々の生徒に対して、丁寧な指導をしてほしい。		

重点6 危機管理意識を高め、自らの命を守り抜く安全・防災教育		評価
1	西紀中学生4つの宝(挨拶・全力・傾聴・素直)を基盤に、きびきびした生活、すがすがしい環境、温かい仲間による安全安心で規律ある教育環境を確立する。	B
2	安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時即応する。	A
3	食・睡眠・交通をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災や国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する能力を育成する。	B
4	家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や自転車保険への加入等、安全に対する意識の高揚を図る。	B
<input type="radio"/> 日頃からの学級、部活動指導の中で、きめ細やかな指導を行い、規律ある教育環境を整えることができた。定期的な安全点検を行い、安心・安全な学校環境を整えることができた。防災教育では、様々な場面を想定した避難訓練を、1年間を通して実施することができた。		
<input checked="" type="radio"/> 西紀中学校4つの宝の啓発については、全職員が同一歩調で一丸となって今後も周知・啓発を行い、生徒への自覚を高めていく必要がある。より安心・安全な学校環境を整えるために、各種マニュアルの見直しを行い、危機管理意識の高揚を図っていくことが大切である。		
<input type="checkbox"/> 昨今、特に不審者対応が必要となっている。4月当初には専門家を招いての不審者対応研修をしていく必要がある。今後も、危機管理意識の向上は、教育の最重要課題でお願いしたい。		

重点7 美しく活気に満ちたコミュニティ・スクール		評価
1	ホームページ、オープンスクール等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。	B
2	生徒会与学校運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来につながり、夢・やりがい・やすらぎ(安全安心)を体感する教育を進める。	A
3	学校運営協議会の協力のもと、教育課程の評価改善や、人的物的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。	B
4	小・中・高等学校の連携を密にし、生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての学びと育ちの連続性を確立する。	B
<input type="radio"/> コロナ禍ではあったが、行事には保護者にも参加していただく機会が得られ、地域の方に学校に来ていただく機会が少しずつ増えてきている。「四つの力委員会」では、生徒の意見を受け止め、学校運営委員会の委員のみなさんが何かできることを考えてくださった。		
<input checked="" type="radio"/> 「四つの力委員会」における生徒の提言では、あいさつ運動と地域での活動をしていきたいとの意見が出た。その思いを受けとめて、コロナ対策をしながらできることから取り組んでいきたい。小中連携事業は、全教職員が意識して取り組むことが大切である。		
<input type="checkbox"/> 「四つの力委員会」での生徒の皆さんの意見発表は本当に素晴らしかった。コロナ禍での各種のボランティア活動、地域貢献活動の内容や方法を検討していく必要がある。		

重点8 笑顔と元気に満ちた教職員組織		評価
1	学年担任制、一人一研究授業を通じ、豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。	B
2	心を外に開き、基礎的指導力向上を図り、保護者や地域の人々の期待に応えられる教職員組織であるよう研究と修養に努める。	B
3	法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報化、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。	A
4	笑顔と元気に満ちた態度で生徒と向き合うため、校務の効率的・計画的な実施、会議の効率化(会議資料の事前配布)、ノ一部活デーや定時退勤日の徹底、記録簿の整理、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。	B
5	3カ年計画の3年目の取り組みが計画的にできている。	B
<input type="radio"/> 学年組織を中心とした、丁寧な指導をさせていただいている。日々の教育実践が保護者や地域からの信頼につながっている。教育課題は多くあるが、情報を共有し、個々の生徒に適していると考えられる指導・支援ができるように努めることができた。		
<input checked="" type="radio"/> 業務改善が大きな課題である。タイムマネジメントを意識して、一人ひとりが自分の勤務について振り返り、少しでも効率化を図り、勤務時間の適正化を進めたい。生徒支援と保護者との関係については、関係機関との連携も視野に入れて進めていきたい。		
<input type="checkbox"/> 先生方の真摯な取り組み、頑張り感謝したい。適正な勤務時間等、諸条件の回復に努めていただきたい。職員間の良好な人間関係は、学校経営の基盤となる場所である。情報共有に努め、信頼関係の構築に向けて更なる努力を期待します。		